

あぐり 最前線



土壌分析をしましょう！
—コスト低減に向けて—
JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(20g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・Eメールと、水稲野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目名を記入して、7月19日(金)までに各支店へご持参ください。分析結果は8月中旬頃にご連絡致します。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

Xは出荷できない日 は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、**〔収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数〕**を表しています。農薬は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能

水稲



●中干し

7月上旬頃から『中干し』の時期です。倒伏させず、目標茎数を確保して、良品質の米を生産する重要な作業となります。

《中干しの効果》

- ・茎数が過剰に増えるのを防ぐ。
- ・株元を硬くし倒伏を防ぐ。
- ・土壌中に酸素を供給し根腐れを防止する。
- ・田面を硬くし収穫作業を容易にする。

など、丈夫な稲作りや収穫作業の能率向上のために欠かせない作業です。

《中干しを始める目安》

1株あたりの茎数が20本程度になった

頃で、田植えから約30〜40日後から始め、田面に軽くヒビが入るまで行います。なお、水稲の生育や水田の特性により、次のように強弱をつけましょう。

◇茎数が多い、葉色が濃い、排水の悪い水田、粘土質の水田では土面に1〜2cmのヒビが入るまで強めに干します。

◇茎数が少ない、葉色が薄い、水保ちの悪い水田、砂質土の水田では土面に細かいヒビが入る程度とします。

《中干し以降の水管理》

中干し後、急激に湛水状態になると根傷みますので、走り水を入れて慣らしてから本格的に入水します。

◎幼穂形成期〜出穂期にかけての水管理
この時期は、稲にとって最も水が必要な時期です。幼穂形成期〜穂ばらみ期は間断かんがいをを行い、出穂期は水をたっぷり入れるようにしましょう。

●穂肥
7月中旬頃より早生品種から施用します。施用日の基準は栽培指針を参考に、品種、葉色を見ながら増減してください。

新シヨウガ



●収穫

新シヨウガは鮮度が重要です。収穫したシヨウガを畑で乾燥させすぎると、汚れが落ちにくくなり品質低下にもつながります。収穫後は布などで覆うか、散水して早めに水洗いするようにしましょう。

●換気と灌水
通風が悪く湿度が上昇すると紋枯病が発生しやすくなり、塊茎が変色します。ハウスのサイドを開けたり、スソ張りビニールを取り除いたりして、大幅に換気

しましょう。換気量が増加すると今まで以上に乾きやすいため、灌水量を増やし、乾燥に注意しましょう。

●病害虫防除
◎アワノメイガ(10月頃まで発生)
・バダンSG(容) 1500倍(7日/5回)
・トルネードエースDF 2000倍(7日/3回)
◎紋枯病
・バリダシン(液5) 800倍(14日/4回)
・モンカット(フ40) 2000倍(3日/5回)

◎根茎腐敗病
根茎腐敗病が発生したら被害株を早めに除去し、必ず薬剤散布してください。
・ユニフォーム(粒) 18kg/10a(30日/3回)
・ランマン(フ) 500〜1000倍(2〜3日/3回)
m²土壌灌水(30日/3回)

ピーマン



通路をカラカラに乾燥させないで！

●尻腐れ果、日焼け果
この時期になると尻腐れ果、日焼け果の発生が多くなります。

尻腐れ果は、①地温が高い、②通路が乾燥する、③チツソ過多により石灰分が果実で吸収されない。または、根傷みも原因の1つです。対策として通路をカラカラに乾燥させないで、散水して土壌全面に水がしみ込むようにします。また、石灰分の補給に葉面散布剤としてCa液肥500倍液を散布してください。



●整枝

各主枝の生育バランスを図りながら混み合う部分の小枝や徒長枝を整枝すると、ふところまで日光がよく当たり、通風も良くなります。また、薬剤散布時に薬剤が十分樹にかかり防除効果も上がります。少々強い整枝でも減収しません。

青ネギ



●播種

播種は、128穴プラグトレーに、1穴あたり10粒程度播種します。病害防止のため、トレーは直接土の上に並べないようにしましょう。

ネギの発芽適温は20〜25℃です。高温になる場合は必ず遮光などを行ってください。

●病害虫防除

◎アザミウマ類
(定植前日〜定植時) 50倍(0.5ℓ/ト
・スタークル(顆) 50倍(0.5ℓ/ト

ニンジン



●収穫

抽苔の発生や腐りなどの問題を回避するためにも適期収穫を心掛けましょう。7月上旬以降の収穫は、長日・高温による抽苔の発生や、梅雨時期の大雨による腐りの発生を助長します。

●病害虫防除
◎軟腐病
細菌性の病害で、高温・多湿条件下で発生します。被害株(葉や根)は圃場外に持ち出し処分しましょう。また、次作に向けてクロルピクリンを含む土壌消毒剤(クロピク80、ソイリン、ダブルストッパー)を処理してください。

トウガン



●追肥

・ニューパワーユキ068(40kg/10a) または
・BMスーパー野菜君(60kg/10a)
*時期や量は、株の生育や気象、土壌条件により加減してください。

●病害虫防除
◎ハダニ類
高温・乾燥により発生しやすくなります。初期防除を徹底するとともに、抵抗性をつけたいよう、必ずローテーション防除してください。

・サンマイト(フ) 1000〜1500倍(前日/2回)
・コテツ(フ) 2000倍(前日/2回)

ホウレンソウ(砂地)



●播種

生育を揃えるために播種前にムラのないうよう灌水し、覆土はできるだけ薄くします。また、夏期高温期の播種は、発芽不良や苗木枯病が発生しやすいため、播種後、土壌表層に卵殻エースを施用しましょう。土壌表層の温度を下げ、石灰の補給にもなります。

●灌水

播種後は十分に灌水し、発芽までは乾燥に注意しましょう。ただし、収穫前7〜10日の灌水はズルケの発生を助長するため、灌水を止めましょう。



日焼け果は、曇雨天が続いた後の晴天時に発生します。防止には、根が水分を十分吸収できるように通路への散水が必要です。

コマツナ(砂地)



●播種

本葉1〜2枚までに乾燥すると、生育不良や不揃いの原因となりますので、播種前にムラのないよう灌水し、覆土はできるだけ薄くしてください。

夏期栽培では高温で葉縁が裏側に巻くカッピングが発生しやすいので、換気と40%程度の遮光資材で遮光しましょう。

●灌水

灌水は午前中に行いましょう。夕方や曇天時の灌水は軟弱徒長の原因となります。収穫前7〜10日は灌水しないでください。

ウメ



収穫作業も終盤を迎えます。収穫後は、お礼肥の施用・灌水を行います。

●お礼肥

果実生産に消耗した樹体栄養の回復を図るため、L型化成88(40kg/10a)を施肥してください。

●灌水

ウメは浅根性なので、高温乾燥に影響を受けやすく、土壌が乾燥すると早期落葉を招き翌年の開花や結実に悪影響を及ぼします。晴天日が7〜10日続いた場合は、1樹あたり100ℓ程度灌水してください。

モモ



早生品種から収穫が始まります。熟度の進行に注意し、適期収穫に努めましょう。

●除袋

収穫の5〜10日前に行います。果頂部と縫合線部を除き、果皮色が白っぽくなる頃が目安です。除袋以後、曇雨天が続くと予想される場合には、除袋を2〜3日早めて着色向上を図ります。

●反射マルチの敷設

樹の内部や下枝の果実の着色向上を目的に、除袋2〜3日後、果実の先端が少し着色し始めた頃に敷設します。

●病害虫防除

▽収穫前

- 灰星病
- ベルクート(水) 100倍(前日/3回)
- シンクイムシ類・アブラムシ類・モモナハモグリガ
- ロディー(水) 100倍(前日/5回)
- ハダニ類
- ダニトロンフロアブル 200倍(7日/1回)

●せん孔細菌病

- バリダシン液剤5 500倍(7日/4回)
- ▽7月上旬〜中旬 ※中・晩生種
- 灰星病・黒星病
- オーシャイン(水) 200倍(前日/3回)
- アブラムシ・シンクイムシ類
- ダイアジノン(水34) 1000倍(前日/4回)

イチジク



●灌水

イチジクは乾燥に弱く、高温乾燥状態になると葉がしおれ、葉焼けしやすくなります。3日以上晴天が続く場合は、灌水してください。

●摘芯

葉や新梢の生育に費やされていた養分を果実の生育に向けてよう摘芯します。7月中下旬で葉数が18枚以上の頃に行いましょう。また、生育不良な結果枝については摘芯しないでください。

●病害虫防除

- ▽7月上旬(梅雨明け後)
- さび病・そうか病
- トリフミン(水) 200倍(7日/3回)
- アザミウマ類・キボシカミキリ
- モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)

カキ



●摘果

傷果・奇形果・小玉果などを摘果して、果実の肥大促進を図りましょう。

●病害虫防除

- ▽7月中旬 ※富有柿
- 落葉病・炭そ病
- ジマンダイセン(水) 600倍(45日/2回)

●早期出荷対策(白マルチの場合)

- 刀根は7月下旬より敷設
- 平核無は8月上旬より敷設

ミカン



7月は生理落下が終了します。着果の状態に合わせた粗摘果を実施しましょう。

●粗摘果

極早生の温州ミカンなど、着果の多い樹は早期に摘果しましょう。また、中晩柑類の着果過多樹や生理落下が少ない「はるみ」においても早期摘果を徹底し初期肥大を促します。

●灌水

梅雨明け後、乾燥するような場合は灌水が必要で、特に中晩柑類では、初期肥大の確保や酸高の防止のため、早めに灌水しましょう。目安は、果実が日中柔らかく朝になると硬くなっている場合は数日後に灌水が必要で、朝になっても柔らかい場合は早急に灌水してください。

●除草剤

- ラウンドアップマックスロード 200倍(7日/5回)
- または
- タッチダウンiQ 200倍(5日/3回)
- 熟期促進
- ファイガロン(乳) 3000倍(14日/2回)
- *10aあたり30ℓ